全油販連第７２回定時総会
講演会・講話、懇親パーティー開催

令和7年１０月２３日(木) １４：３０～１８：３０
ロイヤルパークホテル　東雲の間・有明の間

全国油脂販売業者連合会は、１１月２３日、東京のロイヤルパークホテルで第７２回定時総会を開催した。総会では、令和６年度事業報告及び決算報告、令和７年度事業計画案及び予算案が原案のとおり承認されたほか、欠員となっていた専務理事に梶島達也が選任された。

総会後は講演会を開催。料理研究家・栄養士・フードコーディネーターの荻野恭子様が、「世界の食文化と油脂」と題して、半世紀以上にわたる海外での料理研究を通じた世界の油脂事情について御講演くださった。

荻野先生の講演

続いて、農林水産省大臣官房・新事業食品産業部食品製造課 野添剛司課長による講話が行われ、「食品産業行政をめぐる最近の情勢」と題して、食料システム法及び食料供給困難事態対策法の施行に係る対応状況や次期総合物流政策大綱の策定に向けた取組状況などをお話しいただいた。

その後の懇親パーティーでは、初めに館野洋一郎会長が、「講演していただいた荻野先生は世界７０か国以上を歩いた経験から各国ごとにいろいろな食文化があるとのお話であり、油脂の卸問屋としてインバウンドへの対応や輸出への対応をしていくためにも、世界の食文化を学ぶというのは大変貴重な機会だった。講話では、野添課長から最近の食料供給システムや事態法などの様々な政策の話を賜ったが、その中でも油脂の位置付けにおいて安定供給が重要とのお話を頂いた。農林水産省、野添課長をはじめ皆様方から今後も様々な御指導を賜りながら、皆様と一緒にしっかりと安定供給の務めを果たしていきたい。」と挨拶した。また、館野会長は、油脂業界をめぐる状況について、「需要・供給の両面においてこの先５年、１０年は非常に大きな転換点である。新しい需要であるインバウンドや輸出などの状況に対応できるよう、油脂の価値をきちんとユーザーや消費者の方々にお伝えできる業界になっていくための油脂未来セミナーは本年をもって一旦総取りまとめを行うが、その先については油脂メーカー、植物油業界、

野添農水課長の講話

関係団体の皆様と一緒に進めていくことを考えている。有事の際の安定供給についても、業界全体としてのＢＣＰを作っていこうといった議論をしている」と述べた。

続いての来賓挨拶では、野添課長より「食品の中で非常に重要な位置付けである油脂について、油脂メーカーと実需者をつなぐ役割を果たしていただき、安定供給に協力いただいていることに敬意を表したい。高市総理の下で新たに鈴木大臣が就任されたが、職員訓示の中で、『まず現場をしっかりと見ながら政策を進めていかなければならない』と話された。安定供給していくための取組を関係者全体で進めていかなければならない、平時も含めて協力を頂き、連携しながら進めなければいけないと改めて感じた」と述べた。

次に、日本植物油協会 佐藤達也会長（㈱J-オイルミルズ会長）が、「２０２４年から食料価格指数はほぼ横ばいが続いているが、植物油に関しては明らかに上昇傾向が見て取れる。これは米国等の主要生産国におけるバイオ燃料政策による植物油の需要増が背景にあると考えられ、その結果として大豆ミールが増加するが、飼料需要がそれに応じて増加するわけではないので、国外に輸出され我が国の植物油業界にも大きな影響を与えつつある。米国の通商施策や物価上昇が個人消費に及ぼす影響など、需要環境はこの先予断を許さない状況にあるが、植物油業界は国民の食生活に不可欠な植物油を安定的に適切な価格で供給していく責務があり、全油販連の皆様とメーカー各社が切磋琢磨し、油の価値を高めながら使命を果たしていく必要がある」と述べられた後、乾杯の音頭が取られた。

懇親パーティーの中〆は、木村顕治副会長が、「大阪では、今年は『何回行きましたか？』という挨拶が多くなるほど万博に行くのは当然で、私も７回行った。楽しいことをやれば人が集まるということを今回の万博で学んだ。全油販連も皆さんが来てよかったとなるように実のある会にしていきたい」と挨拶し、油〆を行った。

油脂製販関係者約８０名が参加する盛会となった。

館野会長の挨拶

佐藤日油協会長の挨拶

木村副会長の中〆挨拶

（写真提供 油脂特報社）